

茨城大学学報

第275号

平成19年10月～平成19年11月



茨苑祭前日、銀杏も準備完了

INDEX

- ◆工学部技術部研修会（技術発表）を開催
- ◆茨城大学・茨城県・茨城産業会議主催連携講演会を開催
- ◆社団法人茨城県経営者協会と地域連携講座の設置に関する協定を締結
- ◆第42回関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修を開催
- ◆大学教育センターFD 研修会を開催
- ◆(株)関彰商事と社会連携に関する交流会を開催
- ◆水哉寮・みずき寮で消防訓練を実施
- ◆平成19年度寺島薬局育英奨学金授与式を開催
- ◆第58回茨苑祭を開催（テーマ：和くなごみ）
- ◆阿見町と茨城大学との地域連携シンポジウムを開催
- ◆永年勤続者表彰を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆工学部技術部研修会（技術発表）を開催

本学では、平成19年度工学部技術部研修会（技術発表）を去る9月7日（金）、工学部E5棟（総合研究棟）で開催しました。

この研修会は、工学部技術部が主催するもので、技術職員の実験施設・装置の維持管理及び研究室支援に伴う技術の開発、改善等の経験により得た知識等を発表し、情報交流と技術職員の資質の向上を図ることを目的としています。

今年で10回目を迎え、同大職員のほか埼玉大学、群馬大学、筑波大学の技術職員など80名が参加しました。

研修会は、菊池龍三郎学長、横山教育研究評議員の挨拶に続き、特別講演3件、技術発表6件が行われました。特別講演では「ICAS 設立の経緯と活動」「パルス中性子回折法と茨城県材料構造解析装置について」「J-PARC における中性子回折装置の建設と構造生物学への展望」の講演が行われました。

研修会後の懇親会では、日頃交流機会の少ない技術職員にとって、他大学との相互交流・親睦が深められ、大変有意義な交流の場となりました。



技術部研修会（技術発表）のようす

◆茨城大学・茨城県・茨城産業会議主催連携講演会を開催

本学では、去る10月2日(火)に水戸駅近くの常陽藝文センターホールを会場として、「地球温暖化に関する国際的な動向と経済活動の将来」をテーマに講演会を開催しました。

この講演会は、本学が茨城県および茨城産業会議と連携し、すでに連携協定を締結している水戸市・日立市・鹿嶋市・阿見町・東海村の後援をうけて開催したもので、関係機関からの参加者に加え一般聴講者も加わり180名を超える講演会となりました。

講師として、三村信男地球変動適用科学研究機関長が「IPCC第4次報告書が示す温暖化の将来予測」について、佐和隆光先生(立命館大学大学院特別招聘教授:京都大学特任教授)から「ポスト京都議定書の国際枠組みと、その政治経済影響」について熱心な講演がありました。また、講演終了後の質疑応答の時間では、聴講者からの素朴な質問もあり、終了予定時刻を超える盛況となりました。

本学では、「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」をめざし、地域と共に協働できる企画事業の展開を今後も推進する計画であります。



温暖化対策と政治的影響について講演中の佐和隆光先生

◆社団法人茨城県経営者協会と地域連携講座の設置に関する協定を締結

本学では、去る10月3日（水）10時から事務局において、社団法人茨城県経営者協会と地域連携講座の設置に関する協定調印式を実施しました。経営者協会から関正夫会長、野口専務理事をはじめ5名の出席をいただき、大学側からは菊池学長、山形学術担当副学長、白井教育担当副学長、海老澤理事を含め8名が出席し、和やかな雰囲気の中で調印式が行われました。NHK等の報道関係者の取材もあり話題性の高さが伺えるものとなりました。

協定が結ばれた地域連携講座「地域連携論Ⅱ」（働く意義・学ぶ意味）は、後期から開講され、経営者協会の協力で県内企業等の経営者から講師が派遣され、授業形態もユニークで、40分の講話の後に学生は20分間で感想文を書き、残りの30分を教員のコーディネートにより講師と学生のディスカッションを行うなど、双方向の授業形態となっています。15回の講義のうち3コマは経営者協会、茨城大学文理・人文学部同窓会、カスミ、ケーズホールディングス、常陽銀行等の県内主要企業のご協力をいただきシンポジウムと就職模擬面接を開催するなど、単なるキャリア教育でないことが最大の特徴となっています。

地域連携講座は、学生には普段接する事ができない企業トップの実践的な講義に加え、様々な体験を通して、社会では「物事の本質を理解し行動する力」が大切であることや、社会生活は大学生の時から既に始まっていることを学ぶ講座となっています。



挨拶される関正夫経営者協会会長

◆第42回関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修を開催

(社)国立大学協会関東甲信越地区支部及び東京支部が主催する「第42回関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修」を本学が当番校として10月15日から19日までの5日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。

本研修は、今後の国立大学法人等の会計事務を担う中堅職員を対象として、関東甲信越地区の国立大学法人等から推薦された95名が受講しました。研修内容は、監査法人の公認会計士による「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人の税務」についての講義、並びに班別討議で、受講生からも多くの質問、発言があり、活発な研修となりました。

また、文部科学省高等教育局高等教育企画課国立大学法人評価委員会室 遠藤評価委員会係長による「中期目標期間の評価等について」、研究振興局学術研究助成課 大城学術団体専門官、科学技術・学術政策局調査調整課競争的資金調整室 野呂瀬室長補佐による「科学研究費の現状と課題について」、高等教育局国立大学法人支援課 山崎財務分析係長による「国立大学法人関係決算について」、同課財務分析係 安部田事務官による「会計検査と内部統制について」の特別講義があり、国立大学法人等に対する国の施策等の最新情報が提供された。

研修二日目には、受講生主催の懇親会の企画があり、各大学の情報交換等で親睦を深めることができました。



当番校を代表して挨拶する長谷川理事・事務局長

◆大学教育センターFD 研修会を開催

本学では、去る10月16日共通教育棟において、「大学教育センターFD 研修会」を開催し、電気通信大学の酒井邦秀准教授を迎え「多読を通して教養教育を考える」と題した講演を行いました。

酒井准教授は、『辞書は使わない、分からなくなったら飛ばす、つまらなくなったらやめる』という多読三原則に沿って、やさしい英語の本から始めて、無理のないように英語の本を読んでいくうちに、いつのまにかペーパーバックが読めるようになる」という多読方法を広く普及されております。

本学でも教養の総合科目で多読講座を開催しており、そのクラスでも多くの学生がいつのまにか英語の本が読めるようになっていく、という体験をしています。

酒井准教授によれば、この多読方法を授業で行う際の重要な点は、教員は学生に教え込



むのではなく、学生が自ら読み自ら理解していくことを助ける存在だということです。つまり、学生が自分で本を読み、その本が面白くて内容に夢中になるという体験を重ねていくうちに、日本語を通して英語を理解するのではなく、英語をそのまま理解できるようになり、ペーパーバックのように語数の多い本でも楽しく読めるようになっていくということです。従って、本を読む主体は学生自身であり教員はその手助けをする存在となります。この点は大学における教養教育の意味を問う上で大きな投げかけとなりました。

講演中の電気通信大学酒井邦秀准教授

◆(株)関彰商事と社会連携に関する交流会を開催

本学では、(株)関彰商事との協定に基づく関彰育英会から学部生1名、大学院生3名が奨学金の支給を受ける連携関係にあり、去る10月30日(火)午後2時から事務局において、同社と社会連携に関する交流会を開催しました。

関彰商事からは関正樹社長をはじめ9名の出席をうけ、大学側からは菊池学長、海老澤理事、中島地域連携推進本部長をはじめ7名に、奨学金を受けている4名の学生も加わった開催となりました。

交流会は、鈴木研究協力・地域連携課長の司会進行により、菊池学長及び関社長の挨拶から始まり、学生を含めて忌憚のない活発な意見交換が行われました。特に、本学卒業の方からは、地元の大学を卒業し地元の企業に入社したメリット等について、熱い思いが伝えられました。

また、同社との連携事業についての活発な意見を受け、実現できるものから着手していくことや、今後定期的に交流会を開催することが合意されました。



挨拶を行う菊池学長

◆水哉寮・みずき寮で消防訓練を実施

本学では、去る11月7日（水）午後に水戸地区学生寮（水哉寮・みずき寮）で約70名の寮生が参加し、消防訓練を実施しました。寮生全員が自衛消防組織の編成に所属し、訓練は毎年秋に1回行っています。

今回の訓練では、男子寮4階給湯室からの火災発生と目視による発見を想定し「火事だ！」と叫んでの通報から避難・救護までの総合訓練と水戸消防本部職員の指導を受けながら消火器、5階居室設置の避難器具及び屋内消火栓を実際に使用して各々の訓練を実施しました。

参加した寮生は、人命の安全や怪我人など最小限にとどめることなどを念頭におきながら真剣に訓練に取り組んでいました。



消火訓練をする寮生

◆平成19年度寺島薬局育英奨学金授与式を開催

本学では去る11月9日(金)に、昨年に引き続き寺島薬局株式会社から寄付された奨学金について応募論文審査、面接審査を経た学生12人に対し、それぞれ30万円の奨学金を贈呈しました。

菊池学長からは、寺島薬局に対してお礼の言葉と、学生に対して「将来、志をもって介護、医療、福祉分野で活躍していただきたい」とあいさつがあり、寺島薬局の田口社長からは、「奨学金は昨年に引き続き、地域に貢献したいので実施している。日本の高齢化社会を支えるため有効に使っていただきたい」とあいさつがありました。

授与された学生代表からは「奨学金を有効に使い、介護、医療、福祉分野で貢献したい。」と感謝や期待に添いたい旨のあいさつがありました。

今後も奨学金を継続し支援することで、本学学生には、将来の高齢化社会における社会システムを変えていく原動力となることを期待されております。



挨拶される寺島薬局田口社長

◆第58回茨苑祭を開催（テーマ：和くなごみ）

去る11月17日（土）～18日（日）、水戸キャンパスを会場として、第58回茨苑祭を開催しました。今年度の茨苑祭は「昭和と平成の融合」の意味を込めた「和くなごみ」をテーマとして掲げ、昭和生まれ・平成生まれの学生が一体となって臨みました。

ステージでは、お笑いタレント2組による「お笑いLIVE2007」のほか、多彩なジャンルの演奏・パフォーマンスが演じられました。

また、毎年恒例の各参加団体による模擬店や展示・発表、献血キャンペーン等に加え、水戸市保健所によるエイズに関する講演会や写真家・石川文洋氏による講演会、来場者の方に大学の講義を楽しく体験してもらう公開講座といった、知的好奇心を刺激する企画も多く催されました。

開催期間中は地域の方々のご協力とご理解をいただき、また、天候にも恵まれ、茨苑祭を無事終了することが出来ました。



人文学部 C 棟前のステージ

◆阿見町と茨城大学との地域連携シンポジウムを開催

本学では、交流協定を締結している阿見町との地域連携シンポジウムを、去る11月18日(日)に茨城県立医療大学大講義室及び阿見町総合保健福祉会館「さわやかセンター」を会場として開催しました。

本学からは、菊池龍三郎学長、松田智明農学部長をはじめ関係教職員が、阿見町からは川田弘二町長、大崎誠副町長をはじめ関係者及び地域の方々の多数の参加により、約140人の出席がありました。

シンポジウムでは、関 広一前小千谷市長による「地域の頑強性・脆弱性－災害時の住民と行政の役割－」と題した基調講演において、新潟中越沖地震の貴重な体験談を聞くことができ、また、教育学部の木村 競教授の質疑応答式による基調講演では「地域の持続性と住民」について考えることができました。

基調講演の後に行われた分科会では、「阿見町総合計画策定の課題」と「阿見の自然と地域づくり－耕す市民が支えるみどりの町づくり－」の2会場に分かれ活発な意見交換が行われました。



基調講演する 関 広一 前小千谷市長

◆永年勤続者表彰を開催

平成19年度本学永年勤続者表彰式が、去る11月16日（金）事務局会議室において、学長出席のもとに執り行われました。

また、表彰式終了後懇談会が開催され、受表彰者からの思い出話や今後の抱負等が披露され、和やかなうちにお開きになりました。

なお、被表彰者は次の方々です。

学長表彰

| | |
|----------------|-------|
| 入学課長 | 仁平 諭 |
| 学務課 学務総務係 会計主任 | 高橋 秀治 |
| 教育学部附属小学校 養護教諭 | 宮内 和子 |
| 教育学部附属中学校 教諭 | 橋本 浩志 |
| 教育学部附属中学校 教頭 | 皆川 修 |
| 教育学部附属中学校 教諭 | 萩谷 正教 |
| 教育学部附属中学校 教諭 | 高橋 資明 |



平成19年度 茨城大学永年勤続者表彰記念 平成19年11月16日

事務局玄関前での記念写真